

インターバンクの声（2017年4月18日）

ロンドン市場がイースターマンデーのために休場が続く中、ニューヨーク市場の序盤から中盤にかけてのドル円は、北朝鮮を巡る緊張状態に変化がないとして円高のまま推移した。

108円台前半から中盤での取引が最後まで続きそうに感じられたが、ムニューシン米財務長官が英紙フィナンシャル・タイムズ(FT)とのインタビューで「長期的に見て強いドルは好ましい」と語ったことが伝わるとストップロスのドル買いを巻き込んで109円台に上昇した。

さらにムニューシン長官は、年内の税制改革実施も予想しながら経済成長を重視するとも述べており、今後北朝鮮問題が落ち着いて具体的に大型減税の話題が持ち上げれば相場展開も大きく変わるかも知れない。ただ、先週のトランプ大統領が米紙のインタビューで「ドルが強くなり過ぎている」と述べたことにも触れ「大統領は短期的なドルの強さについて事実に基づく発言をした」と語っているようだ。

大統領の発言を優先させるとすれば、やはりしばらくはドルを買い難く、早い段階でインフラ投資や大型減税の具体案を出して欲しい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。